▼メベンダゾール錠　［内］

【重要度】　【一般製剤名】メベンダゾール（U）　Mebendazole　【分類】駆虫剤
【単位】▼100mg/錠
【常用量】1回100mgを1日2回，3日間
■体重20kg以下の小児には半量にする
【用法】1日2回 朝・夕
【透析患者への投与方法】消化管からほとんど吸収されず，常用量（5）
【保存期CKD患者への投与方法】消化管からほとんど吸収されず，常用量（5）
【特徴】ベンズイミダゾール系駆虫剤．虫体に直接作用する．蠕虫チューブリンに特異的に強い親和性を持ち，微小管の形成を阻害し，次いでグルコースの取り込みを阻害する．その結果内部グリコーゲンの枯渇，ATP生成阻害がおこり，分泌・吸収機能阻害により蠕虫は死滅あるいは駆虫される．
【主な副作用･毒性】ショック，アナフィラキシー，SJS，TEN，血球減少，肝機能障害，皮膚障害，脱毛，消化器症状など
【安全性に関する情報】肝障害はすべて適応外疾患に対する長期投与（21～32日間）において認められている（1）中毒症状として腹部痙直を起こすことがある．長期又は大量投与を受けた患者において，肝炎，無顆粒球症及び糸球体腎炎の発現が報告（1）炎症性腸疾患患者では吸収率が増大する可能性（U）
【吸収】わずかに吸収される（1）5～10%吸収され，高脂肪食で増大する可能性（U）
【F】0.1～0.3%（1）
【tmax】1.9hr（1）2～5hr（U）
【代謝】主にカルバメートの加水分解，次いでケトンの還元［ラット］（1）主代謝物は2-amino-5-benzoylbenzimidazole（U）
【排泄】尿中未変化体排泄率0.019%［po，72hrまで］（1）代謝物の5-benzoyl-1-aminobenzimidazoleとして0.258%が尿中に排泄（1）尿中回収率2～5%で主に主代謝物（U）
【t1/2】4.4hr（1）2.5～5.5hr，肝障害時には35hrに延長（U）
【蛋白結合率】資料なし（1）90～95%（U）
【Vd】資料なし（1）肝，筋肉に主に分布，胎盤を通過（U）
【MW】295.29
【透析性】資料なし（1）おそらくほとんど除去されない（5）
【O/W係数】油相に分配（1）
【肝障害患者における情報】肝障害時には半減期が延長するため減量する必要があるかもしれない（U）
【更新日】20240814

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。
※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。